

〈今日の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-104- (2面)
- ・登録品種の増殖は許諾必要 (3面)
- ・20年 全営農類型平均の所得3.8%増 (4面)
- ・サツマイモ基腐病が全国に拡大 (5面)
- ・乳中脂肪酸などで乳牛の体調管理 (6面)
- ・子牛の寒冷対策が必要 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

22年産米の適正生産量675万ト

主食用4万タ削減必要 需給見通し

農水省は11月19日、食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開き、主食用米の需給見通しなどの基本指針(案)を示し、了承された。21年産の生産量や、今後の需要の見通しを踏まえ、22年産の需要に見合った「適正生産量」を675万トに設定した。21年産の予想収穫量を20万ト以上も下回る水準であり、引き続き大幅な作付け転換(転作)が必要となる。

2021年(20年7月〜21年6月)の需要実績(確定値)は、前年の714万トから10万ト減の704万トと減幅をもち、21年6月の民間在庫量は218万ト(同)となり、前年同月末の200万トから3万ト217万トになる(表)。

22年産(22年7月〜23年6月)の需要見通しは、1人当たり消費量は693万トだった。過去最大規模の作付面積の削減(6万7千タ)が必要とされる。21年産の適正生産量は675万トだった。過去最大規模の作付面積の削減(6万7千タ)が必要とされる。

項目	記号	範囲/値
22年6月末の民間在庫量	a	213~217 (218)
22年産主食用米等生産量	b	675 (701)
22/23年主食用米等供給量計	c=a+b	888~892 (919)
22/23年主食用米等需要量	d	692 (702~706)
23年6月末の民間在庫量	e=c-d	196~200 (213~217)

※()内は21/22年の見通し (農水省の資料から)

た。22年産では、飼料用米のほか、麦や大豆などへの転換をどう推進するかが課題となる。

◇

21年産米の収穫量701万ト。同省は12月8日、21年産米の収穫量(主食用)が700万7千トになるとの見通しを発表した。

前年産に比べ、21年9千ト(3.0%)の減少で、前回発表(10月15日現在)と変更がなかった。全国の10ヶ所当たり収穫量は539トで、前年産比8%増の見込み。

全国的作況指数(平年110)は101の「平年並み」で、前回と同じ。米生産が盛んな北海道は108で唯一の「良」、東北は「やや良」の110、北陸は「やや不良」の97だった。西日本では「平年並み」の地域が多かった。

21年度農水補正予算8795億円

TPP・コロナ対策に重点

政府は11月26日、臨時閣議を開き、21年度補正予算案を決定した。農林水産関係は8795億円(公共事業費3716億円、非公共事業費5079億円)を計上。TPP(環太平洋連携協定)等関連対策に3200億円を措置したほか、新型コロナウイルス対策等の予算を確保した。

重点事項は、①「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施、②米の需給及び価格の安定に向けた対策の実施、③新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた経済支援と食品産業の強化、④ポストコロナ社会を見据えた農林水産施策の推進、⑤防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進に柱とした。

総合的なTPP等関連政策大綱に基づき、農林水産物・食品の30年輸出5兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」を実施する。輸出促進を図るため、輸出産地・事業者の育成・展開、輸出先国の規制や需要に対応した加工施設等の整備などを

支援する。国際競争力のある産地イノベーション(刷新)の促進のため、「産地生産基盤パワーアップ事業」に310億円を計上。高収益作物の生産拡大に取り組み産地への機械の導入、集出荷施設の整備などを支援する。野菜、果樹、花き、茶などの栽培において、需要の変化に対応した新品目・品種の転換なども支援する。

鳥インフルが各地で発生
 11月10日に秋田県の養鶏場で今季初の発生が確認された高病原性鳥インフルエンザは、その後、各地で感染が相次いでいる。養鶏場での確認は8県・9事例となった(12月14日時点)。各県とも飼養鶏の殺処分、移動制限・搬出制限、米生産が盛んな北海道は牛の増頭等に101億円、「国産チーズの競争力強化」に60億円をそれぞれ計上した。

米の需給対策では、「コロナ影響緩和特別対策」として165億円を措置。集荷団体と実需者が連携して行う長期計画的な保管、中食・外食事業者等への販売促進などを支援する。「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」には420億円。新市場開拓用米(輸出用米など)、加工用米、適正な施肥の推進、慣行の施肥体系から地域の堆肥の活用拡大などの実証等に係る費用を支援する。「配合飼料価格高騰緊急対策」には230億円。配合飼料価格の高騰に対応し、生産者への補助金交付を着実に実施する。(2面に畜産・酪農関係の主な事業)

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

開拓三団体代表、金子大臣を訪問



④金子農水大臣(右から3人目)に要請書を手渡す菊地連盟委員長、⑥大臣と意見交換



全日本開拓者連盟・全国開拓農業協同組合連合会・全国開拓振興協会の開拓中央三団体の役員6名は11月30日、農水省に金子農水大臣を訪問し、酪農経営の基盤強化に向けて、要請を行った。

菊地文夫連盟委員長が金子大臣に要請を手渡した。菊地委員長は開拓農業の現状を説明した上で、①配合飼料

料価格高騰対策②生乳需給安定化対策③豚熱、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病対策④原油価格高騰に伴う農業用燃料高騰

対策を要請した。意見交換に移り、平木勇全開連代表理事長、西谷悟郎振興協会会長らも畜産・酪農の生産現場

の状況を伝え、対応を要望した。家畜ふん尿処理の課題、輸入粗飼料価格の上昇、建築資材の高騰

などの実情も訴えた。金子大臣は「状況は厳しいが頑張ってください」と述べた。

食料・農業 知っておきたい話 第104回 「搾るな」は現場の意欲を削ぐ クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき

東京大学教授 鈴木宣弘氏

放置されるコメ・酪農危機

需要減がコロナ禍で増幅され、コメ在庫が膨れ上がり、1万円を下回る低米価が現実になってしまった。どんなに頑張ってもコメの生産コストは1万円以上かかる。このままでは、中小の家族経営どころか、専門的な大規模稲作経営も潰れる。

「総理が15万トの人道支援を表明」との報道があったが、15万トのコメを全農などが長期保管した場合の保管料の支援で、子ども食堂などに提供されるのは2年後とかは足りていない側面がある。潜在需要はあるのに買えないという「コロナ困窮」で20万ト以上のコメ在庫が積み増された。

コメや食料を「1日1食」しか食べられない人が増えているからだ。今必要なのは、食べられなくなつた人たちに政府が農家からコメや乳製品を買って届ける人道支援だ。苦

しむ国民を救えば、在庫が減り、価格も戻り、苦しむ農家も救われるが放置されている。政府は「コメを備蓄用以上買わない」と決めたのだから断固できない「乳製品はすでに一切買わないこととした」と意固地に拒否して、フードバンクや子ども食堂などを通じて人道支援のための政府買入れさえしない。

「総理が15万トの人道支援を表明」との報道があったが、15万トのコメを全農などが長期保管した場合の保管料の支援で、子ども食堂などに提供されるのは2年後とかは足りていない側面がある。潜在需要はあるのに買えないという「コロナ困窮」で20万ト以上のコメ在庫が積み増された。

しかし、コメや牛乳は余っているのではなく、実は足りていない側面がある。潜在需要はあるのに買えないという「コロナ困窮」で20万ト以上のコメ在庫が積み増された。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。



東京大学教授 鈴木宣弘氏

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「搾るな」は現場の意欲を削ぐ。クラスタ事業で増産誘導した政府が責任果たすべき。

「スマート農業」輸出「みどり戦略」推進

農林水産業・地域の活力創造本部

政府は11月18日、農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

農水省が農林水産政策の主要課題と対応方向として、①スマート農林水産業・地域の活力創造本部（本部長・岸田文雄、内閣総理大臣）の会合を開き、農林水産政策の対応方向等について議論した。岸田総理は議論を踏まえ、次期通常国会に必要な法案を提出することを含め、各分野の改革の具体的な方策の年内とりまとめに向け、政府一体で取り組むよう指示した。

21年度補正予算の概要（畜産・酪）

21年度農林水産関係補正予算案では、「総合的（所要額）617億円」のうち、畜産クラスター計画を策定した地域において輸出の拡大や中小農家を支援する畜産基盤強化、経営継承を後押しするため、収益性向上等に必要となる機械導入・施設整備などを重点的に取り組むべき課題に対して設定している優先枠に、「飼料増産強化対策」を新設している。

▼畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進に係る事業をはじめ、畜産・酪農関係の主要事業・予算額は次のとおり。

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産クラスター事業の取組みなどを支援

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産クラスター事業の取組みなどを支援

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産クラスター事業の取組みなどを支援

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産クラスター事業の取組みなどを支援

▼畜産物輸出コンソーシアム推進対策 22億円

▼和牛の増頭等増頭奨励金（所要額）78億円

▼畜産環境対策総合支援事業 18億円

▼畜産クラスター事業の取組みなどを支援

登録品種の増殖は許諾必要

農水省が各地で改正種苗法説明会

農水省は11月18日から種苗室及び農研機構的財産部の担当者が留意点などを説明した。改正種苗法(20年12月公布)に関する全国説明会(写真)及びブロック説明会(9カ所)を開催した。

来年4月1日に施行となる改正種苗法は、農業者も消費者も利益を享受している。一方、日本で開発された優良品種が海外に流出し、流出国における生産・流出国からの輸出が拡大している。

改正種苗法の改正には多くのコストが必要で、その価値を維持するためには知的財産権の保護が不可欠である。改正種苗法は、



植物の新品種を開発した育成者の権利(育成者権)を強化し、登録品種の無断栽培や、海外や他の国内産地への無断持ち出しを防止することなどを目的としている。

農研機構の登録品種(自家用の栽培向け増殖)に係る許諾は、遵守事項を守ることを条件に、品目ごとに分けて手続きを行う。①許諾手続きが不要(稲、小麦、大麦、牧草、トウモロコシなど)②許諾手続きを要する(無償・カンシヨ、イチゴ、バレイショ、茶)③許諾手続きを要する(有償・果樹)④共有品種(他

者)と共同で権利を有する登録品種は、品種ごとに対応が異なる場合がある。この許諾は自家用の栽培向け増殖に係るものであり、増殖した種苗の他者への譲渡(有償・無償に関わらず)を許諾するものではない。許諾の申請受付開始は、22年2月を予定している。

食品ロス量 (2019年度推計値)	2017年度	2018年度	2019年度	前年度との比較
食品ロス量	612万ト	600万ト	570万ト	▲30万ト、▲5%
事業系食品ロス量	328万ト	324万ト	309万ト	▲15万ト、▲5%
家庭系食品ロス量	284万ト	276万ト	261万ト	▲15万ト、▲5%

農水省は11月30日、19年度の発生量(推計値)を公表した。食品ロス量は570万トとなり、前年度より30万ト(5%)減少した。4年連続の減少となった。内訳は、食品関連事業から発生する事業系食品ロス(規格外品、返品、売れ残り、食(残)が15万ト(5%)、減の30万ト、一般家庭から発生する家庭系食品ロス(食(残)、野菜や果物の皮などの過剰除去、直接廃棄)も15万ト(5%)減の261万ト。いずれも、推計を始めた12年度(642万ト)以降、最も減少した。15年に国際連合で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)のターゲット1「貧困をなくす」のターゲット1.3「食料ロスを削減する」の目標達成に向け、日本政府は、19年公表の「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」(食品リサイクル法)の基本方針で、事業系食品ロスを2000年度比で30年度までに半減させる目標を設定。家庭系食品ロスについても、「第四次循環型社会形成推進基本計画」(18年閣議決定)において同様の目標を設定している。

最優秀賞は(農)穂坂牧場

福岡県畜産農協枝肉共進会

福岡県畜産農協は11月29日、福岡市中央卸売市場食肉市場で21年度の枝肉共進会を開催した。今年度は、交雑種21頭(去勢7頭、雌14頭)が出品された。

入賞者は次のとおり。最優秀賞(農)穂坂牧場、優秀賞(同)、優良賞(同)、特別賞(同)。肉重594.0kg、口ス芯面積88cm、バラの厚さ10.1cm、BMS No.12、格付はA5。

優良賞 井上真好、山口義男、重松英利、(有)鶴産産、中山工

樋口畜産に栄冠

佐賀県開拓畜産事協は

佐賀県開拓畜産事協は12月3日、多々市の佐賀県畜産公社で第6回佐賀開拓畜産大会を開催した。今年度は、肉牛部門に黒毛和牛が出品された。

黒毛和牛全体の成績は、平均枝肉重量が575.3kgで、4等級以上比率が100%だった。5等級が12頭で66.7%を占めた。両部門の入賞者は次のとおり。

宮崎県乳用牛肥育事業農協は11月30日、第59回通常総会を開催し、役員改選を行った。総会後の理事会で、新代表理事組合長に黒岩優氏を選任した。

「開拓記念碑」

福岡県粕屋町・駕輿丁開拓



福岡県の北西部に位置する粕屋郡粕屋町は、西側を福岡市と接している。福岡市のベッタウソンとして発展を続け、人口も約4万8千人と多い。鉄道・バス、高速道路などの交通網が充実しており、商業や流通業が盛んだ。同町は1957(昭和32)年、仲原村と大川村の合併により誕生した。60年代頃までは、石炭採掘と稲作を中心とした農業が盛んだ。戦後、極度の食糧難となり、政府は全国の開拓可能な原野を収容し、食糧増産を進めた。同町では、駕輿丁(かこり)で、駕輿丁開拓史として、開拓記念碑建立除幕式(52年)の写真が載っている。同開拓史によると、47年に駕輿丁開拓農協

を結成し、旧・仲原村から16名が選ばれ、25畝に及ぶ原野の開墾が開始された。山林の切り開きや木の根の掘り起こしを全て人力で行う重労働だった。開墾には成功したものの、開拓地一帯特有の赤土は、作付けを行っても十分な収量は得られなかった。モモ(桃)の栽培に取り組んだ後、土壌改良を重ねた結果、ブロッコリーの栽培に成功した。町の特産品「粕屋ブロッコリー」の産地として、現在も生産が続けられている。

全営農類型平均の所得3.8%増

20年 水田、野菜等の粗収益増

農水省は11月30日、2019年度(令和3年)営農経営体の経営収支の調査結果を発表した。全営農類型平均の農業粗収益は992.3万円と、前年(2018年度)に比べて7.2%増加した。これは、水田作経営等での経営規模が拡大したこと、野菜作・果樹作経営等の作物収入が増加したことなどによる。

一方、農業経営費は869.9万円と、前年(2018年度)に比べて7.7%増加した。これは、荷造運賃手数料、雇人費等が拡大したことによる。この結果、農業所得は1,188.4万円と、前年(2018年度)に比べて3.8%増加した。

営農類型別農業経営収支の概要 (千円)

区分	全営農類型平均			水田作経営			畑作経営			露地野菜作経営		
	19年	20年	対前年増減比	19年	20年	対前年増減比	19年	20年	対前年増減比	19年	20年	対前年増減比
平均			%			%			%			%
農業粗収益	9,253	9,923	7.2	3,272	3,450	5.4	11,803	11,838	0.3	9,413	10,737	14.1
うち 作物収入	5,069	5,398	6.5	2,448	2,561	4.6	9,228	8,999	-2.5	8,667	9,758	12.6
畜産収入	3,114	3,319	6.6	6	9	50.0	140	110	-21.4	21	27	28.6
共済・補助金等受取金	794	944	18.9	573	622	8.6	1,936	2,226	15.0	598	768	28.4
農業経営費	8,065	8,690	7.7	3,097	3,271	5.6	9,634	10,119	5.0	7,777	8,678	11.6
農業所得	1,188	1,233	3.8	175	179	2.3	2,169	1,719	-20.7	1,636	2,059	25.9
作付延べ面積(アール)	337.3	353.3	4.7	225.0	241.3	7.2	550.5	558.5	1.5	154.0	162.1	5.3

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

	全体(n=310)	男性(n=155)	女性(n=155)
特にしていない	18.4	9.0	27.7
肉や魚など他の食材を安く抑えて野菜にお金を回している	3.2	4.5	1.9
乾燥野菜を乾かして使う	3.5	4.5	2.6
生産者直送の野菜を買う	7.4	5.8	9.0
自分で作っている(ガーデニング)	10.3	8.4	12.3
道の駅など直売所を利用している	14.2	11.3	17.7
カット野菜を買う	18.1	15.5	20.6
買った野菜を冷凍保存して使う	24.2	21.0	27.4
安く買った野菜を調理に必要な最低限の野菜のみで使う	29.4	26.1	32.3
冷凍野菜を代用品として使う	30.6	26.1	36.1
もやしなど比較的安い野菜を補足的に代用している	32.9	25.2	41.3
スーパーで見つけた安いものを買う	49.0	40.6	57.4

野生鳥獣被害額2%増

シカ・カラスによる被害拡大

20年度

農水省がこのほど公表した「20年度全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」によると、農作物被害金額は約16億9千9百万円と、前年(2019年度)に比べて約1.6%増加した。これは、シカ・カラスの被害が増加したことによる。シカは約46億円で約0.7%増、カラスは約5億円で約0.4%増となっている。

また、被害金額を鳥類・獣類に別けると、鳥類による被害は約14億円で約0.5%増、獣類による被害は約2億5千万円で約0.1%減となっている。シカは約46億円で約0.7%増、カラスは約5億円で約0.4%増となっている。

また、被害金額を鳥類・獣類に別けると、鳥類による被害は約14億円で約0.5%増、獣類による被害は約2億5千万円で約0.1%減となっている。シカは約46億円で約0.7%増、カラスは約5億円で約0.4%増となっている。

農用地域内の農地400万㍉割れ

20年 荒廃農地28.2万㍉で横ばい

農水省は11月11日、2020年(令和3年)12月31日時点の農用地域内の農地面積が4,000万㍉を割ったと発表した。全国で農用地域内の農地面積は、前年(2019年)から6千㍉(0.1%)減の3,999万6千㍉となり、400万㍉を下回った。

優良な農地を確保・保全するとともに、農業振興のための各種施策を計画的かつ集中的に実施するため、市町村は、総合的な農業振興の計画として農業振興地域整備計画を策定している。その中で、おおむね10年を見通した農用地等として利用すべき土地を農用地区域として設定している。

同区域内の農地面積は、同区域からの除外や荒廃農地の発生で減少傾向となっている。同省は「農用地等の確保等に関する基本指針」において、施策効果により、30年時点の同区域内の農地を397万㍉確保する目標を掲げている。

20年は、同区域への編入、荒廃農地の解消等により1万2千㍉増加した一方で、農地転用等による同区域からの除外、荒廃農地の発生等により1万8千㍉減少した。同省は同日、20年の荒廃農地面積(2020年11月30日時点)も公表した。全国の荒廃農地面積は約28万2千㍉となり、前年より約2千㍉(0.7%)減少したものの、近年、横ばいで推移している。荒廃農地とは、「現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地」という。「再生利用が可能な荒廃農地」と「再生利用が困難と見込まれる荒廃農地」に分かれる。再生利用が可能な荒廃農地は、前年比約1千㍉減の約9万㍉(農用地区域では約5万5千㍉)だった。再生利用が困難と見込まれる荒廃農地は、前年と同じ約19万2千㍉(同区域では約8万1千㍉)で、荒廃農地全体の68%を占めている。同省が今年1月に全市町村を対象に実施した「荒廃農地対策に関する実態調査」では、荒廃農地が5年後「増加している」と回答した市町村は73%に上っている。「今後の荒廃農地の発生防止策として必要と思われること」については、特に中山間地域では「鳥獣被害防止のための取り組み」の割合が高い。

野生鳥獣による農作物被害金額の推移



注1: 都道府県からの報告による。
注2: ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「ウイズコロナ時代」の生活習慣

「買い物時に安く買う工夫」5割

「野菜の価格が高騰した際に創意工夫していること(複数回答)」

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

「買い物時に安く買う工夫」5割

サツマイモ基腐病が全国に拡大 原因菌を「持ち込まない、増やさない、残さない」

サツマイモ基腐病(もとぐされびょう)が急速に全国に広がっている。防除の取り組みについて概略を紹介する。

基腐病対策の基本は「持ち込まない、増やさない、残さない」の三つ。最も重要なことは、無病健全苗を生産または確保し、ほ場に植え付けることである。発生が認められたほ場では、生育初期の発病株の抜き取りと予防的な薬剤散布、排水対策、早期収穫、罹病残さの持ち出しと分解促進、土壌消毒、抵抗性品種の利用またはカンショ(サツマイモ)以外の作物との輪作、休耕などの対策を総合的に実施する必要がある。

基腐病は、ディアポルテ・デストルエンスという糸状菌に感染することにより、苗床や本ほ場で発生する。貯蔵中の塊根(イモ)にも発生する。基腐病菌は主に、感染した種イモや苗を植え付けることでほ場に持ち込まれる。ほ場で生育不良や萎れ、黄変、赤変などした株の地際のあたりが暗褐色~黒色に

なっていたら基腐病の可能性がある。

〈防除対策〉

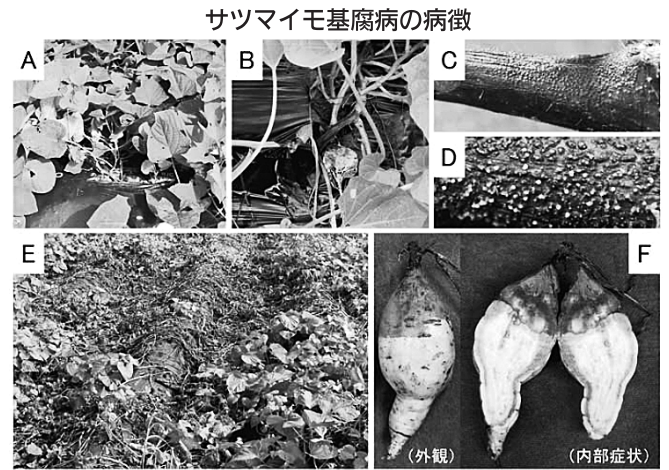
未発生地域では汚染種苗を「持ち込まない」ことが最も重要な防除対策となる。また、初発生地域では基腐病菌を定着させないための対策が必要となる。病原菌による土壌の汚染が進んでからの防除は難しくなるため、早期に発見し、少発生のうちに徹底的に「増やさない」「残さない」対策を実施して封じこめることが望ましい。常発生地域では健全種苗の供給・確保や、ほ場の病原菌密度を低減させるための対策が必要となる。

①「持ち込まない」対策

(ア)種イモ採取用の専用ほ場を設置して管理する。(イ)定期的にウイルスフリー苗やバイオ苗を導入して種苗を更新する。(ウ)苗床消毒。(エ)種苗の選別・消毒を行うなど、無病健全苗を生産することが必須である。

苗床で基腐病が発生した場合は、苗床から種イモを含め残さを極力持ち出

した上で、夏場に複数回耕うんし、残さの分解を促進する。苗床の土壌消毒は、ダゾメット粉粒剤を用いて、地温、土壌水分など適切な条件下で実施する。土壌消毒効果を高めるため、薬剤処理後直ちにビニールなどで被覆する。



注) A:葉の変色、B:株元の黒変、C:柄子殻(分生子殻)が形成された茎、D:柄子殻から漏出した胞子(乳白色の水滴の中に多数の胞子が含まれる)、E:地上部の枯れ、F:腐敗塊根(品種「コガネセンガン」)の外観と内部症状

②「増やさない」対策

発病株をほ場に残留しておくと、発病部位に大量の胞子が形成され基腐病がまん延する原因となるため、定期的に巡回し、発病株の早期発見と除去に努める。発病株は袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し適切に処分する。発病株除去後は、補植はせず周辺株を中心に薬剤を散布して感染を予防する。まん延しやすい降雨後や台風通過後は、薬剤の全面散布を行う。基腐病に対する茎葉散布剤は銅水和剤、炭酸水素ナトリウム・銅水和剤及びアズキシストロピン水和剤が農薬登録されている。基腐病菌はヒルガオ科植物にのみ感

染し、作物ではカンショのみ被害が知られている。発生ほ場ではカンショの連作を避け、非宿主作物の栽培や休耕することが重要である。

③「残さない」対策

基腐病菌は、カンショ残さで越冬し次作の伝染源になるため、罹病残さはほ場外に持ち出し、地域のルールに従って適切に処分する。持ち出しできない残さは、耕うんなどを行ってすき込む。残さの分解には土壌中の微生物が関与することから、20℃以上の地温と適度な土壌水分が必要と考えられる。

(農畜産業振興機構 砂糖類・でん粉情報 2021年10月号引用)

天敵昆虫タバコカスミカメを利用 難防除害虫に有効

天敵昆虫「タバコカスミカメ」は、キュウリやトマトなどの施設園芸で問題となる難防除害虫のアザミウマ類やコナジラミ類の防除に有効である。

本種は日本に広く分布するため、野外で採集した個体を土着天敵として利用することも可能だが、東日本では生息密度が低く、防除に利用できるほどの数を採集できない。また、他の虫との識別も簡単ではないため、農研機構は全国の生産者が簡単に本種を入手できるよう、(株)アグリ総研及び5県(高知、福岡、岡山、静岡、千葉)の公設試と共同で製剤化した。

タバコカスミカメ剤は21年5月26日に農薬登録され、商品名「バコトップ」

として7月から販売されている。

トマト及びキュウリ栽培におけるタバコカスミカメの地域別の利用マニュアルを同機構ホームページにて公開している。

○天敵製剤タバコカスミカメの利用法と特徴

①これまでに市販された天敵よりも大型で、キュウリやトマトなどで問題となっている難防除害虫のアザミウマ類やコナジラミ類の防除に有効。

②一部の植物や代替餌資材で発育・増殖できるため、餌となる害虫が少ない時でも、バーベナ、クレオメなどの天敵温存植物や天敵用餌ひもにより、施設内で安定して定着させることがで

き、害虫発生初期から効果を期待できる。

③タバコカスミカメをより効果的に使えるようにするために、タバコカスミカメを誘引する紫色LED装置、害虫コナジラミの忌避剤アセチル化グリセリド、エッジ色彩粘着板、新規赤色防虫ネットなどを開発し、これらを組み合わせた防除体系を地域別にマニュアル化し、同機構ホームページにて公開している。本防除体系の利用により、IPM(総合的病害虫管理)が実行可能となる。

④タバコカスミカメ剤の使用はキュ

ウリ及びトマトの栽培施設に限られている。使用に際しては施設開口部に防虫ネットを被覆すること、使用後は施設を締め切り内部の植物が枯死及びタバコカスミカメが死亡したことを確認するなど、野外へ逃亡しないように処置することが必要。また、タバコカスミカメはコナジラミ類及びアザミウマ類を捕食する天敵生物だが、植物を吸汁する生物でもあり、害虫が低密度の時、高密度放飼を行うと植物体に傷などが発生する恐れがある。特に、初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにすること。

農作物の盗難を防ごう！

近年、農作物が盗まれる被害が全国各地で起きている。生産者にとっては、営農意欲を失わせる深刻な事態だ。

農水省では、地域の盗難被害の状況や防犯対策の実態を調査し、その結果を基に農作物の盗難を防ぐ際の参考となる啓発資料「農作物の盗難の実態と対応策」(パンフレット)としてまとめ、ホームページに掲載している。その利用により、盗難を防止したい。

▼実態調査結果

被害認知件数が多い23道府県について、調査を行った。被害金額は50万円未満が多い(9割)。ビニールハウス等からの被害もあるが、ほ場からの被害が多い(48%)。多様な品目で被害が発生している。特に、モモ、ブドウ、

キャベツ、ハクサイ、リンゴ、サクランボ、イチゴの被害が多い。未解決事案が多い(40%)。市町村、JA、警察等が連携しパトロール・チラシ配布等の対策が実施され、効果がみられた。

▼生産者が行う取り組み

収穫物は畑などに放置せず持ち帰る。ハウス、保管庫等の出入口・窓の施錠を徹底。収穫用コンテナや脚立等の撤収。作業車や作業車両に目印をつける。園地にネット・柵を設置し、「盗難注意」「立入禁止」「農薬散布直後」「防犯カメラ作動中」等のステッカー・看板を設置。防犯カメラ、センサーライト等の設置。

▼地域で行う対策

情報チラシの作成・共有。盗難防止パトロール。防災無線等の活用による情報供給・呼びかけなど。

おいしい食べきり キャンペーン開始 みんなで食品ロスを減らそう

農水省は、消費者庁、環境省及び全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会と連携し、21年12月1日から、外食時の「おいしい食べきり」全国共同キャンペーンを開始した。期間は22年1月31日まで。

わが国の「食品ロス」量は、年間約570万tと推計されている。そこでこのキャンペーンを実施し、ウェブサイト・SNS等による情報配信、啓発資料のホームページでの提供等により、食

品ロスの削減とその普及啓発を進める。

外食時の食べ

きりだけでなく、テイクアウト時の適量購入、家庭での食べきりについても啓発を行う。食べ残しの持ち帰り「mottECO(もってこ)」も自己責任の範囲で取り組む。

食品ロス削減の取り組みを「国民運動」として推進するため、19年に「食品ロス削減推進法」が施行され、20年に「食品ロスの削減に関する基本方針」が閣議決定されている。

(ロゴマーク)



mottECO

乳中脂肪酸などで乳牛の体調管理

分析サービスが各地で始まる

生乳中の脂肪酸組成の分析は、ルーメン内の健康状態や飼料の給与バランスなどをチェックする技術として注目されている。

兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センターでは、近畿生乳販連生乳検査所との共同研究により、酪農家への診断サービスを開始した。

乳成分分析装置を用い、乳中脂肪酸組成を迅速・簡易に測定する技術により、データを基に乾物摂取量や疾病リスクを解析する。従来の牛群検定データと併せて解析した診断結果を近畿生乳販連傘下の酪農家に提供している。

さらに、11月からはA I (人工知能)

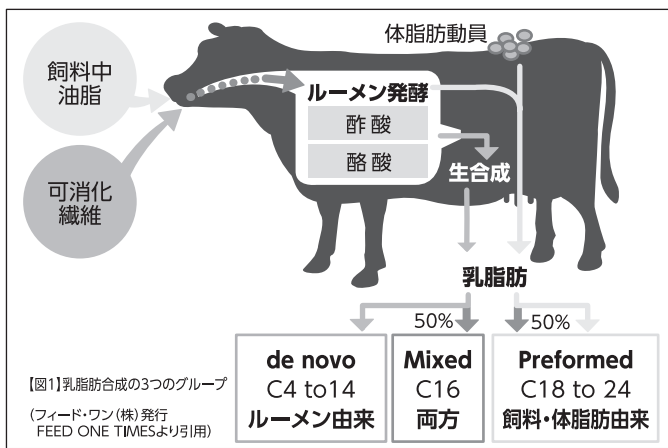
北海道における脂肪酸組成の指標値

脂肪酸(%)	泌乳初期	泌乳中後期
分娩後	～60日	61日～
デノボFA	22%以上	28%以上
プレフォームFA	50%未満	40%未満
乳中(%)	全乳期	
デノボMilk	0.9%以上	

(北海道酪農検定検査協会リーフレットより引用)

を活用して、個体毎の栄養の過不足、疾病リスク、飼料摂取状況などの診断コメントを追加した。

酪農家はこれらの情報に基づいて、飼養牛の健康や栄養状態を把握し、生乳生産の効率アップを図ることが期待される。



生乳中の脂肪酸分析は、(公社)北海道酪農検定検査協会でも2021年4月から開始している。乳検情報並びにバルク情報に脂肪酸の分析結果を追加し、データは酪農家がパソコンやスマホで活用

帰ってきた!! 臼井の養豚 ワンポイント管理

防疫対策の再確認を

11月10日に、今季初めて秋田県で鳥インフルエンザが発生し、それ以降、各地で相次いで確認されています。いずれの農場にも周辺には池があり、ここに飛来する渡り鳥から感染したものとみられています。

野生のイノシシの豚熱陽性個体が確認され、豚への感染リスクが高いとされる36都府県で豚熱ワクチンの接種が行われていますが、厳寒期を迎える中では豚舎周辺にイノシシが接近する可能性が高くなります。ワクチン接種農場であっても豚熱の発生が確認されているため、一層の注意が必要となります。

アジアの各国ではアフリカ豚熱の発生が継続しています。現在は新型コロナウイルス感染症の新たな変異

株である、オミクロン株が確認されたことで、海外からの入国が制限されていますが、今後、規制が緩和されて人の往来が再開すると、アフリカ豚熱の国内侵入リスクも高まることが懸念されます。

鳥インフルエンザを対岸の火事とすることなく、この機会に「飼養衛生管理基準」に基づき衛生管理区域への病原体の侵入防止の対応について、特に豚舎周辺の防御柵、防鳥ネットの破損等の再点検を行い、万全の体制で年越しをしたいものです。

(全開連参事 臼井靖彦)

侵入防止フェンス



できるように工夫されている。

●デノボ脂肪酸

ルーメン内の発酵により生成された酢酸や酪酸を原料として乳腺で作られる。基準値を下回るとルーメン内の異

常が疑われる。

●プレフォーム脂肪酸

体脂肪や飼料に由来する脂肪酸で、基準値を上回る場合は乾物摂取量の不足などが疑われる。

A2ミルクってなに

お腹がゴロゴロしないだけじゃない?

牛乳が苦手な理由の一つに、「牛乳を飲むと消化不良を起こすから」というものがある。これは、牛乳の中に含まれる乳糖(ラクトース)を消化吸収するために必要な「ラクターゼ」という消化酵素の分泌不足が原因といわれている。

市販されている「おなかがゴロゴロにくい牛乳」は、乳糖をあらかじめ8割ほど分解して除去したもので、販売が開始されてから一定の需要を確保している。

一方で、牛乳に含まれるタンパク質の種類が「おなかがゴロゴロする」原因に関係しているのではないかの研究が進んでいる。

牛乳に含まれるタンパク質にはβ-カゼインA1とβ-カゼインA2が存在している。これは乳牛が遺伝的に持っているもので、人間の血液型のようにA1型とA2型の組み合わせによって、生乳中に「A1のみ」、「A1とA2」、「A2のみ」といったβ-カゼインが含まれる。



なかしべつ牛乳プレミアム NA2 MILK (JA中標津 HPより引用)

「A2のみ」の遺伝タイプの乳牛を選抜し、製造された牛乳がA2ミルクとして販売され始めた。JA中標津(北海道)では「なかしべつ牛乳プレミアムNA2 MILK」の商品名で商品化されている。

また、栃木県では農業科の高校生が試験的に製造に取り組み、道の駅などで販売した実績がある(那須塩原市・那須拓陽高校)。

岡山県の蒜山(ひるぜん)酪農協では、地域で飼養するジャージー牛1700頭のうち、670頭のゲノム検査を実施したところ、約70%がβ-カゼインA2タイプの遺伝子を持っていることが分かった。



〔(一社)日本A2ミルク協会HPより引用〕

A2/A2	70%
A2/A1	30%
A1/A1	0%

(蒜山酪農協 HPより引用)

ちなみにホルスタイン種では那須拓陽高校が保有牛25頭を検査したところ、9頭(36%)がA2/A2に該当していたとのことである。

◇

海外ではオセアニアやアメリカで販売が始まっており、ここ数年急速に市場シェアを拡大している。

国内では前述のようにいくつかの取り組みが始まっており、普及活動を目的とした団体が発足したものの、社会的にはほとんど知られていないのが現実である。これは、A2ミルク自体の効果・効能について、明確な科学的証明が行われておらず、販売に際して「おなかにやさしい」などをうたえないた

めである。

そのような中で、以下のような研究が開始された。

岡山大学大学院動物栄養学研究室の西野直樹教授が「ジャージー種によるA2牛乳及び乳製品の開発事業」を開始した。研究では、①検査血液を利用したA1/A2遺伝子の診断と選抜戦略事業②A1/A2ジャージー乳を原料とした乳製品の機能性評価試験を柱に取り組み。

このうち遺伝子診断は、家畜保健衛生所の協力を得て、蒜山地方のジャージー牛約1200頭(12ヵ月齢以上全頭)で採血を実施。ゲノム解析でA2産出牛の割合を調べる。

機能性評価ではA1・A2両生乳でヨーグルトを製造し、マウスへ給与。β-カゼインの種類や使用する乳酸菌の違いと消化不良との相関関係を調べるといふ。

(酪農スピード NEWSより引用)

こういった研究が進み、近い将来、A2ミルクが牛乳・乳製品の一層の需要拡大に寄与することを期待したい。

子牛の寒冷対策が必要

的確な飼養管理で体温保持

全国的に日を追って寒さが増している。昼夜の寒暖差も大きく、寒さに弱い子牛にとって多大なストレスとなっている。発育不良のみならず、呼吸器病発症の危険性が高まっており、的確な飼養管理が必要である。寒冷対策及び呼吸器病対策は、①ストレスを減らす、②病原体を農場に侵入させないことがポイントになる。

○施設と換気

牛舎にすきま風が入ると、実際の温度より寒く感じる。子牛の体に少しでも風が当たる場合は、大きなストレスとなる。ビニールシートやコンパネなどで、すきま風が入るのを防ぐ。

換気も重要である。牛舎を密閉しがちになると、アンモニアガスやホコリなどが充満し、呼吸器病の発症につながる。天気の良い日は、窓や入り口などを開放し、新鮮な空気を取り込む。

○体温の保持

敷料管理が最も重要である。床が湿った状態で、牛体がふん尿で濡れていると寒冷ストレスが増す。下痢発症の原因にもなる。この時期は、子牛の休息場所の敷料をこまめに交換し、かつ厚めに敷く。

日齢の浅い子牛や、虚弱な子牛には、カーフジャケットやネックウォーマー(手作りのものでも可)の着用が効果

的である。

○飼料給与

体温の保持にエネルギーが消費されるため、適切な飼料給与管理が求められる。哺乳牛への代用乳は、夏季よりやや高めの温度のお湯に溶かし、給与時に子牛の体温と同程度の39~40℃になるようにする。人工乳(スターター)の摂取量など、状態によっては離乳時期を1週間程度遅らすなどの工夫をする。

哺乳牛、離乳牛ともに人工乳摂取のためには、飲水が重要。バケツでの給与、水槽での給与を問わず、水は常に新鮮なものを与える。

○衛生対策

飼養衛生管理基準を遵守し、外部から衛生管理区域に病原体が侵入しないよう、対策を講じる。外来者を制限し、農場出入時に車両等を消毒する。各牛

舎の出入りに踏み込み消毒槽を設置し、牛舎内では専用の長靴と衣類を着用する。

踏み込み消毒槽は、長靴の洗浄用と消毒用の2個を置く。消毒液のこまめな交換が重要で、汚れたらすぐに取り替える。寒冷地では消毒液が凍結することが多いため、水槽用ヒーターの活用などを検討する。

また、接種時期などを獣医師と相談し、効果的な牛呼吸器病ワクチン接種が実施されるようにする。

○個体観察

寒冷対策を講じても、病気になる子牛はでてくる。日常的に個体観察を徹底し、食欲不振、鼻汁・発咳、呼吸数の増加などを見逃さないようにする。体温測定の励行が効果的。早期発見、早期対応に努め、呼吸器病の発症を最小限に抑える。

牛飼養頭数が増加傾向で推移

ホルス雄は4年で2割減

(独)家畜改良センターが公表している牛個体識別全国データベースの集計結果によると、21年9月末の全国の飼養頭数は397万2513頭だった。前年同月末に比べ4万3211頭(1.1%)、4年前(17年9月末)に比べ11万9209頭(3.1%)それぞれ増加した。

品種別では、ホルスタイン種雌、交雑種(肉専用種×乳用種)及び黒毛和種の増加傾向が続いている。ただ、ホルスタイン種雄(雄・去勢)は減少傾向で推移し、5年前に比べ2割減少している。

ホルスタイン種雌は18年に増加に転じ、21年9月末も137万2308頭と前年同月比8195頭(0.6%)、17年同月比3万2478頭(2.4%)それぞれ増加した。性

選別精液の利用が増頭に寄与してきた一方で、雄子牛の出生頭数は年々減少。21年9月末の雄飼養頭数は23万4858頭で、前年同月比1万6413頭(6.5%)、17年同月比5万8797頭(20.0%)それぞれ減少した。

交雑種は18年から2年連続で前年に比べ減少したが、20年に増加に転じた。21年9月末は雄雌計で54万5325頭と前年同月比3万3183頭(6.5%)、17年同月比1万7297頭(3.3%)それぞれ増加した。乳用牛への黒毛和種交配率が19年に上昇し、35%前後で推移している。

黒毛和種は17年に増加に転じ、21年9月末も雄雌計(繁殖雌牛含む)で174万692頭と前年同月比2万5頭

全国の牛の種別・性別の飼養頭数(各月末時点)

年月	ホルスタイン種			交雑種(肉専用種×乳用種)			黒毛和種			総計(全品種)
	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	
2017年3月	303,989	1,337,798	1,641,787	276,845	258,071	534,916	559,284	1,037,102	1,596,386	3,841,008
9月	293,655	1,339,830	1,633,485	272,992	255,036	528,028	570,143	1,051,724	1,621,867	3,853,304
2018年3月	285,515	1,341,572	1,627,087	270,334	254,582	524,916	572,258	1,058,399	1,630,657	3,853,643
9月	278,831	1,348,128	1,626,959	263,900	247,499	511,399	582,937	1,069,450	1,652,387	3,865,290
2019年3月	270,642	1,353,645	1,624,287	258,240	244,682	502,922	583,082	1,072,557	1,655,639	3,868,691
9月	265,656	1,361,260	1,626,916	253,909	239,487	493,396	595,099	1,087,199	1,682,298	3,881,324
2020年3月	260,510	1,363,044	1,623,554	258,119	244,482	502,601	599,427	1,097,021	1,696,448	3,902,229
9月	251,271	1,364,113	1,615,384	263,692	248,450	512,142	610,030	1,110,657	1,720,687	3,929,302
2021年3月	242,754	1,363,769	1,606,523	274,857	261,113	535,970	607,092	1,114,772	1,721,864	3,943,634
9月	234,858	1,372,308	1,607,166	281,115	264,210	545,325	616,042	1,124,650	1,740,692	3,972,513

(家畜改良センターの資料から)

(1.2%)、17年同月比11万8825頭(7.3%)それぞれ増加した。繁殖雌牛が16年から前年に比べ、増加傾向で推移している。

◇

同センターは11月26日、20年度(20年4月~21年3月)の全国の牛出生頭数を公表した。総計は128万2731頭となり、前年度を1万9165頭(1.5%)上回った。

ホルスタイン種雄は前年度比1万3536頭(7.6%)減の16万3597頭で、11年連続の減少となった。

交雑種は2万9291頭(11.4%)増の28万5110頭と、大きく増えた。

黒毛和種は1万267頭(1.9%)増の54万8587頭だった。

乳用種・交雑種で発動続く 牛マルキン10月分

農畜産業振興機構は12月8日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の10月分の交付金単価を公表。乳用種と交雑種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、引き続き交付が行われる。肉専用種の発動はなかった。

交付金単価(1頭当たり、概算払い)は、販売価格と生産費との「差額」に100分の90を乗じた額から6000円を控除した額。乳用種は1万7778.0円{前月(確定値)3万5327.7円}、交雑種は1万3215.0円(同2万589.3円)となった。

前月と比較すると、乳用種は販売価格が増加し、生産費のうち素畜費が下がったため、差額は縮小した。交雑種は、販売価格は前月より下がったものの、それ以上に素畜費が減少したため、差額はやや縮小した。

交雑種去勢

3以上8割、4以上5割

21年度の全共・東日本開拓牛成績

10月末から11月初旬にかけて、東京食肉市場において、21年度の全国肉用牛枝肉共励会(以下、全共)と全開連東日本地区開拓牛枝肉共進会(以下、東日本開拓牛)が開催され、ともに好成績を収めた。うち、交雑種去勢の成績を振り返る。

◇全共の第1部には、13道県から交雑種去勢71頭が出品された。24~29ヵ月齢で平均27.1ヵ月齢、生体重量は795~1171kgで平均964.3kg、枝肉重量は525~765kgで平均627.1kg。

肉質成績は、平均BMSNo.5.0、3等級以上比率81.7%、4等級以上比率

21年度 全共・東日本開拓牛 種雄牛別枝肉成績表 (kg)

種雄牛	頭数	月齢	生体重	枝肉重量	BMSNo.	3等級以上	4等級以上
秋忠平	15	26.7	1020.3	651.6	5.27	86.7%	53.3%
梅栄福	9	27.3	938.7	607.9	4.33	88.9%	22.2%
勝美系	5	27.2	989.6	646.0	6.60	100.0%	100.0%
光彦	5	26.6	916.8	598.4	4.80	80.0%	60.0%
全体	87	26.8	953.4	617.7	4.95	83.9%	51.7%

47.9%だった。全共向けで、出荷月齢が長めとなったことがうかがえる。

◇東日本開拓牛の出品牛35頭のうち、交雑種去勢は東北・関東5県からの16頭だった。23~28ヵ月齢で平均25.3ヵ月齢、生体重量は780~1097kgで平均904.3kg、枝肉重量は473~692kgで平均575.9kg。

肉質成績は、平均BMSNo.4.9、3等級以上比率93.8%、4等級以上比率68.8%だった。通常の出荷月齢であるが、肉質成績は全共の成績をむしろ上回っている。

◇全共と東日本開拓牛を合わせて頭数が多かった種雄牛(5頭以上)別の成績及び全体の成績は表のとおり。「秋忠平」(気高系)が最も多く、枝肉重量・肉質ともに全体の成績を上回っている。「勝美系」(田尻系)は全頭が4等級以上だった。

次いで頭数が多かったのは、「第1花藤」「花園安福」「百合勝安」で、それぞれ4頭だった。全体の成績に比べ、枝肉重量はいずれも上回ったものの、肉質には大きな差はみられなかった。

畜産物需給見通し

牛枝肉

強含みの相場展開予想も、上げ幅は小幅か

11月は、緊急事態宣言の解除に伴い、外食需要が少しずつ回復し、相場は上げの展開となった。ただ、出荷頭数の増加傾向が続く交雑種(F₁)は、小幅な上げにとどまった。

【乳去勢】11月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は1043円(前年同月比109%)となり、前月に比べ21円上げた。需要は堅調に推移している。

農畜産業振興機構の需給予測によると、12月の乳用種の全国出荷頭数は2万5800頭(94%)で前年同月を下回ると見込んでいる。

【F₁去勢】11月の東京市場の交雑種去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1483円(前年同月比93%)、B2は1280円(88%)となった。前月に比べそれぞれ48円、32円上げた。

同機構は12月の交雑種の全国出荷頭数を2万3500頭(110%)と、増加傾向が続くと予測している。

【和去勢】11月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が2477円(前年同月比99%)、A3は2245円(98%)となった。前月に比べそれぞれ155円、122円上げた。

同機構は12月の和牛の全国出荷頭数を5万1400頭(109%)と、増加に転じると予測。牛全体の出荷頭数は10万2300頭(105%)と、前年同月を上回る

と見込んでいる。同機構は10月～22年3月の出荷頭数の見込みも発表。乳用種は前年同期に比べ5.1%減、交雑種は8.3%増、和牛は0.5%増、全体では0.5%増と見込んでいる。

交雑種の増加傾向続く

一方、12月の輸入量は総量で4万8千t(98%)と予測。内訳は冷蔵品2万400t(86%)、冷凍品2万7600t(108%)。冷蔵品は、豪州及び米国における現地価格の高止まり等により、前年同月を下回ると予測。冷凍品は、豪州産の輸入量が現地価格の高止まり等により減少するものの、他国産の増加により、前年同月をかなりの程度上回ると見込んでいる。

新型コロナウイルス感染者数の減少により、外食需要のさらなる回復が期待される。一方、生活必需品の値上げが相次ぎ、消費者の節約志向が強まっている。

出荷頭数は増える見込み。牛肉の最需要期となり、相場は強含みの展開が予想されるが、上げ幅は小幅か。

年末から1月上旬にかけての東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が1000～1050円、F₁去勢B3が1450～1550円、B2は1250～1350円、和牛去勢A4が2500～2600円、A3は2250～2350円での相場展開か。

11月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	682	618	303	296	237,773	233,549	785	789
	F ₁ 去	2,016	1,787	330	331	381,313	368,033	1,155	1,112
	和去	1,981	2,055	326	331	807,719	788,129	2,478	2,381
東北	乳去	2	1	280	273	184,800	239,800	661	878
	F ₁ 去	2	4	281	300	273,900	358,325	975	1,196
	和去	2,324	2,446	321	317	793,206	764,187	2,474	2,410
関東	乳去	64	64	363	296	343,269	291,070	946	984
	F ₁ 去	172	144	345	354	383,874	398,230	1,113	1,125
	和去	694	929	318	317	781,846	779,846	2,460	2,457
北陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	82	93	265	287	701,961	733,806	2,649	2,557
東海	乳去	6	8	291	281	254,467	249,150	874	887
	F ₁ 去	59	85	319	326	344,598	352,414	1,079	1,082
	和去	420	219	280	263	799,079	750,571	2,852	2,856
近畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	455	397	264	258	848,074	840,056	3,213	3,260
中四国	乳去	47	55	276	271	209,327	214,820	758	794
	F ₁ 去	292	340	343	344	372,832	369,341	1,086	1,075
	和去	556	833	306	295	756,946	747,665	2,473	2,536
九州・沖縄	乳去	—	13	—	309	—	171,431	—	555
	F ₁ 去	483	469	344	340	376,270	364,124	1,093	1,071
	和去	10,475	8,501	295	298	785,340	752,562	2,661	2,529
全国	乳去	808	759	306	294	244,161	236,151	798	803
	F ₁ 去	3,024	2,829	334	335	379,047	368,596	1,135	1,100
	和去	16,987	15,473	302	304	789,572	762,602	2,614	2,509

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。—は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

牛肉の推定出回り量4.2%減少

21年4～10月 生産・輸入量前年並み、在庫増加

農畜産業振興機構が12月6日に公表した牛肉需給表によると、21年度(4～10月)の牛肉生産量及び輸入量は、ほぼ前年同期並みだった。推定出回り量(消費量に相当)は、新型コロナウイルスの影響による外食需要の減退等を受け、前年同期を下回った。

20年度の前年同期を2年ぶりに前年を上回ったが、21年4～10月は前年同期比0.8%減の19万1576t(部分肉ベース、以下同じ)と、前年同期をやや下回った。品種別にみると、乳用種が2.0%減の5万104t(うち去勢は4.5%減の2万8554t)、交雑種が0.3%減の4万7157t、和牛は0.4%減の9万1153tとなっている。

輸入量は1.1%増の36万8682tだった。内訳は冷蔵品が8.9%増の16万5093t、冷凍品が4.5%減の20万

3439t。国別にみると、米国産が6.5%減の14万5602t、豪州産が6.6%減の14万8361tと、両国とも生産量の減少に伴う現地価格の高騰等により、前年同期を下回った。カナダ産は43.2%増の3万1049t、ニュージーランド産は44.2%増の1万9100tと増えている。

輸出量は56.3%増の4637tと好調で、前年同期を大幅に上回った。

推定出回り量は52万5529tで、前年同期を4.2%下回った。緊急事態宣言・まん延防止等重点措置により、外食需要の低迷が続いたことが主な要因。うち国産品は2.7%減の18万4875t、外食仕向け率が高い輸入品は5.0%減の34万654t。

結果として、推定期末在庫は10.9%増の14万7567tと前年同期を上回った。内訳は国産品が35.6%増の1万4608t、輸入品が8.7%増の13万2959tとなっている。

豚枝肉

出荷頭数・輸入冷蔵品減少で、相場は小幅高か

11月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が493円(前年同月比93%)、中物は459円(93%)となった。前月に比べそれぞれ34円、44円下げた。出荷頭数の増加に伴い、中旬から弱基調で推移したものの、底堅い需要が継続し、月末には上昇した。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、12月は149万6千頭(前年同月比98%、平年比101%)、1月は140万1千頭(99%、99%)と前年をやや下回って推移すると見込んでいる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、12月の輸入量は総量で7万4500t(前年同月比104%)の見込み。内訳は冷蔵品3万5千t(95%)、冷凍品3

万9500t(114%)。冷蔵品は北米における現地価格の高騰の影響等から、前年同月を下回ると予測。冷凍品は中国の買い付けが弱まったことにより相場が下がった欧州産の輸入量が増えていること等から、前年同月を大幅に上回ると見込んでいる。

気温の低下に伴い、鍋物需要が高まる。新型コロナウイルス感染者数が減少してきたことから、外食需要の一定の回復が見込まれる。一方、出荷頭数は前年を下回って推移すると予測されている。また、国産品と競合する輸入冷蔵品の減少傾向が続く見通し。年末から1月上旬にかけて、相場は小幅高の展開が予想される。

東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が500～530円、中物は460～490円での相場展開か。

素牛

スモール

乳素牛、和子牛ともに強もちあいの相場展開か

【乳素牛】11月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が24万4161円(前年同月比97%)、F₁去勢は37万9047円(89%)だった。前月に比べそれぞれ8010円、1万451円上げた。乳去勢の価格は、もちあいで推移している。

枝肉相場は上げ基調で推移する見通し。素牛需要が増加し、価格は強もちあいで推移することが予想される。

【スモール】11月の全国23市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫

定値)は、乳雄が9万5067円(前年同月比92%)、F₁(雄雌含む)は16万6700円(106%)だった。前月に比べそれぞれ3475円、1514円上げた。乳雄は、北海道で強含みの展開となった。F₁は4ヵ月ぶりに前月を上回った。

両品種の素牛の引き合いが強まると予想されることから、スモールの取引価格も強含みで推移か。

【和子牛】11月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、78万9572円(前年同月比101%)となった。前月に比べ2万6970円上げた。北陸を除き、各ブロックで上伸した。

今後、空き牛舎への導入等により、相場は強もちあいで推移することが予想される。